

学校法人溝部学園  
別府溝部学園短期大学  
機関別評価結果

平成 21 年 3 月 24 日  
財団法人短期大学基準協会

## 別府溝部学園短期大学の概要

設置者	学校法人 溝部学園
理事長名	相良 範子
学長名	溝部 仁
A L O	土井 敏行
開設年月日	昭和39年4月1日
所在地	大分県別府市亀川中央町29-10

## 設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
ライフデザイン総合学科		60
食物栄養学科		60
幼児教育学科		70
介護福祉学科		40
	合計	230

## 専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

## 通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

## 機関別評価結果

別府溝部学園短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 21 年 3 月 24 日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成 19 年 6 月 18 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学の起源は、創設者が戦後の激動社会の中で女子教育振興への献身の決意の具現を郷土の地に求め、昭和 21 年の別府高等技藝学校の創立にさかのぼる。その後、昭和 39 年に別府女子短期大学を設置、昭和 55 年から男子学生を受け入れ、平成 15 年に現在の校名に変更している。平成 15 年に介護福祉学科を設置し、平成 20 年に服飾デザイン学科を募集停止して、ライフデザイン総合学科を設置するとともに食物学科を食物栄養学科に名称変更を行った。キャンパス内には附属幼稚園、高等学校、歯科技術専門学校が設置されている。

建学の精神「自立・自活できる人材の育成」は、教育活動全般の基盤として明確に示され、内外に周知されている。教育課程は、各学科の特色を生かした資格の取得を重視して体系的に編成され、学生の多様なニーズにこたえている。授業改善に向けた努力もなされており、学生による授業評価や教員による評価も実施されている。

専任教員数や校地・校舎の面積は、ともに短期大学設置基準に定める基準を充足しており、教室なども整備され、適切な教育環境になっている。学生支援体制では、入学前に課題を課し、入学後はクラス担任などの相談体制をとり、卒業時には教職員が一体となって進路支援を行い、高い就職内定率となっている。

教員の研究活動では、個人差はみられるが、科学研究費補助金の採択件数が過去 3 年間に 2 件の実績をあげている。社会的活動では、学科の特色を生かした地域ぐるみの各種行事を企画・開催し、地域社会に貢献している。

学校法人の管理運営、学長のリーダーシップ、教授会、各委員会などの運営を始め、短期大学の運営全般がおおむね適切に執行されている。学校法人の財務体質は必ずしも健全であるとはいえない状況にあるが、経営改善計画を立て、見直しも行われている。財務の流れ全般はおおむね適切で、財務情報はホームページなどで積極的に公開している。

自己点検・評価活動については、全教職員が点検評価に取り組む体制を確立させていて、相互評価も平成 12 年度以降ほぼ毎年のように実施するなど、積極的に取り組んでいる。

## 2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

### (1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

- 幼児教育学科では「ピアヘルピング」、他の学科では「コミュニケーション論」などを開講し、今日の人間関係に必要な授業科目を整えている。人間関係でつまづく保育者が増えている今日の状況を考慮すると、学生のニーズに対応したものとなっている。

#### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 介護福祉学科の実習施設の広さや機器・設備の整備は充実している。各教員の研究室も十分に整っており、大変恵まれた教育環境になっている。
- 記念館には、心身鍛錬をめざす多目的ホールと日本水泳連盟公認の温泉プールを設置している。これらの施設は、水泳部が平成14年から5年連続で九州地区大学体育大会の団体優勝（女子の部）の実績をあげるなど、活躍の支援を行っている。

#### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 服飾デザイン学科（現ライフデザイン総合学科）学生の制作作品は、全国手工芸展において文部大臣賞などを受賞している。
- 設置する各学科の専門就職の割合は、いずれも高くなっている。

#### 評価領域Ⅴ 学生支援

- 基礎学力不足や成績不振の学生に対して、授業の復習や試験前指導など各授業担当者がきめ細かに学生に対応しており、単位取得に効果をあげている。

#### 評価領域Ⅶ 社会的活動

- 伝統的に地域活動に熱心で、学科の特色を生かした「卒業制作料理試食会」、「子どものためのミュージックカーニバル」、「高齢者の逆デイサービス」を始め各種行事に取り組んでいて地域社会の評価も高い。ボランティア活動として、日本プロバスケットボール bj リーグ開催中の託児サービスを行い、短期大学主催の行事に福祉施設関係者や保

育園児などを招待している。

- 地域社会に向け、活発に継続的に多様な公開講座を開講している。

## (2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 図書室の年間図書予算の確保や開館時間拡大などの改善課題については、実現されることを期待する。

### 評価領域Ⅴ 学生支援

- 募集要項には、それぞれの選抜方法の区分ごとに募集人員が示されていない。大学入学者選抜実施要項にあるように、選抜方法の区分ごとに募集人員を明記することが望まれる。

### 評価領域Ⅵ 研究

- 教員の教育研究経費の予算確保、教員研究室の個室化への改善、研究時間の確保、業績の未発表などの課題が残っている。

### 評価領域Ⅸ 財務

- 負債が多く、学校法人の収支の改善が課題である。経営改善5ヶ年計画を既に策定しているが、その計画が軌道に乗り、学校法人全体の財務体質の改善が望まれる。

## (3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題等が深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

### 3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

#### 評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神・教育理念が教育活動全般の基盤として明確に示され、教職員・在学生のみならず入学予定者に対しても、様々な機会をとらえて周知され、必要に応じて点検も行われている。

全学共通の教育目標とともに、学科・専攻の教育目標も示され、学生に対しては日常授業、学生便覧、入学時のオリエンテーションなどを活用して説明されている。また教職員に対しては新任者研修、理事長・学長の講話などを通じて周知させるなど、建学の精神や教育目標が共通に理解されるための努力がみられる。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

建学の精神・教育理念を背景として、各学科の特色を生かした資格の取得を重視した教育課程が、おおむね体系的に編成されている。教養教育、専門教育もそれぞれの特色を生かしたものとなっており、短期大学の専門教育としての内容となっている。各学科の教育課程には、取得可能な免許・資格に必要な科目がわかりやすく示され、各種の免許・資格などの取得への配慮がなされており、学生の多様なニーズにこたえるものとなっている。授業要項は、学生に理解しやすい表現で科目ごとにまとめられて製本され、各週の授業内容、参考書、評価方法の記載もあり、授業内容、教育方法及び評価方法が学生に明らかにされている。

ファカルティ・ディベロップメント (FD) 活動のための委員会規程が整備され、学生による授業評価、教員の自己点検・自己評価なども実施しており、授業内容、教育方法に改善への努力がみられる。

### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

専任教員数は短期大学設置基準に定める基準を充足しており、教員の採用、昇任は規程に基づき適正に行われ、短期大学教員としてふさわしい人材を、各年代バランスよく充てている。教員は、授業に熱心に取り組み、クラス担当制により適切な助言や指導が行われており、教育研究上の業務にも意欲的に取り組んでいる。

短期大学の校地・校舎の面積は、短期大学設置基準に定める面積を充足しており、講義室、演習室などの機器・備品も整い、適切な教育環境になっている。教育環境はおおむね整備・活用されているが、障がい者への対応は今後の課題としている。

図書室の蔵書数、学術雑誌数、AV 資料数及び座席数などは、在籍学生数に比しおおむね適当である。図書館とそのサービスは整備されている。年間図書予算の確保は現在検討されているが、書庫増設への対応は改善の対象として検討する必要がある。

### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

授業の単位認定の方法は、総合的評価により適切に行われている。「学生の満足度調査」の結果から教員の教育姿勢についても学生の理解が得られているなど、学生の実態をとらえて教育する努力がみられる。学生に対するケアは、各クラス担当者、カウンセリング、事務担当者などにおいて連携を取り十分なされている。各学科において資格取得の機会が十分に準備されており、希望どおり取得している。教育目標の達成のためにおおむね効果をあげている。

各学科の専門就職の割合は、いずれも 95 パーセントを超える高い割合である。卒業生の就職先を対象に、教育の効果を確認するためのアンケート調査を実施している。また、卒業生との接触についても、交わりの場を設定し種々の情報交換が行われている。学生の卒業後評価への取り組みの努力はなされている。

学内で特に注目されたのは、記念館の大展示室に飾られた服飾デザイン学科（当時）の学生の手工芸品である。全国手工芸展で文部大臣賞などを受賞するなど、高い教育と技術の水準を示すものとして、学園の誇りとなっている。また、学内には豊富な温泉を利用した日本水泳連盟公認の室内温泉プールがある。

### 評価領域Ⅴ 学生支援

入学に関する支援では、多様な入学者選抜方法があり、募集要項に記述されている。入学手続者に課題を与え、モチベーションの向上に努めるなど、入学に関する支援はおおむね適正に行われているが、募集要項に入試区分ごとに募集人員を明記することの改善課題もある。学習支援では、クラス担当、アドバイザー教員、事務担当で相談体制が整備され、授業担当者による補習も実施している。学生生活支援では、学友会を中心に姫山祭などの学園行事が活発である。クラブ活動では、卓球部が全国優勝、水泳部が地区優勝するなど多くの実績をあげている。また、憩いの場、保健管理室、カウンセリング室、学生寮などのキャンパス・アメニティはおおむね整備されている。進路支援では、教職員が一体となって支援しており、就職内定率は高水準である。留学生や社会人など多様な学生を受け入

れ、留学生には奨学金制度、寮費一部免除などの特別な支援も行っている。

#### 評価領域Ⅵ 研究

教員の研究活動については、教育活動と並行して各自が鋭意に取り組んでいるが、研究業績の著作・発表までに至っていないものもあり、これを今後の課題であるとして認識されている。

ただし、科学研究費補助金などの採択件数は、平成 18 年度、19 年度にそれぞれ 1 件と実績をあげており、日々の教育活動、校務分掌などで多忙の中にあつて、教員の研究活動はおおむね活発に展開されている。

教員の研究経費については特に規定されていないが、申請により許可がおりれば実費支給がなされている。教員の研究成果を発表する機会は研究紀要の発行などで確保されている。研究活動活性化のための条件がおおむね整っている。教員の教育研究に係る経費予算の確保、教員研究室の個室化、研究時間の確保などの条件整備に若干の課題が残されている。

#### 評価領域Ⅶ 社会的活動

伝統的に地域に根差した教育の実践と開かれた短期大学を目指し、継続的に各種公開講座を数多く実施しており、地域住民の参加も多い。高等学校や自治体、企業や他の団体との交流もあり、社会的活動への取り組みは積極的に推進されている。現在、正規授業の開放については検討中である。

学生の地域社会での体験活動を重視しており、全学科において学科の特色を生かした各種行事を企画・実践している。地域活動や地域貢献、あるいはボランティア活動として、観光都市別府の多くの行事に積極的に参加・協力し、地域社会からも高い評価を得ており、学生の社会的活動を積極的に推進・支援している。

国際交流・協力への取り組みへの努力として、日本語教育コースに中国から毎年 10 人以上の留学生を受け入れて学生支援を実施している。また、中国の複数の教育機関と友好交流訪問も行っている。

#### 評価領域Ⅷ 管理運営

寄附行為の規定に基づき管理運営全般が適切に行われており、理事会等の学校法人の管理運営体制はおおむね確立している。

学長は将来の方向性を見据え改革を断行するなど、リーダーシップを適切に発揮している。教授会ほか各委員会等も、規程に基づき適切に運営されている。短期大学の運営全般がおおむね適切に行われている。

事務組織は事務職員が少数であるため教員の応援により機能している状況にあるが、事務諸規程等は整備されて、業務が行われている。事務組織がおおむね整備されているが、SD 活動に取り組むことが課題として残されている。人事管理についてもおおむね適切に

行われている。

#### 評価領域Ⅸ 財務

学校法人の経営状況及び財政状態は適正に表示しており、ウェブサイトや学校法人事務局にて、財務情報を詳しく公開している。予算編成体制は改善されており財務の事務処理はおおむね適切である。

学校法人の支出超過は、各部門の定員割れが原因となっている。学校法人の財務体質は必ずしも健全であるとはいえない状況にあるが、学校関係者はそれを認識しており、経営改善5ヶ年計画を立て、その見直しも行いつつ努力している。

短期大学に必要な施設設備、台帳、管理規程が整備され、その管理がおおむね適切に行われている。耐震の調査と対策、防犯対策について改善計画を立ており、平成21年度に実施する予定である。

#### 評価領域Ⅹ 改革・改善

自己点検・評価の進展に応じて組織を整備し、平成17年度には「ALO委員」を選任し、全教職員が点検評価する体制を確立させ、毎年、自己点検・評価報告書を作成している。自己点検・評価活動の実施体制はおおむね確立している。

授業評価に関しては問題点を明確化し、改革・改善に役立てている。

相互評価に関しては、平成12年度から16年度まで長崎県の玉木女子短期大学（現長崎玉成短期大学）と奈良県の桜井女子短期大学（現幾中央大学短期大学部）の両短期大学とで毎年実施、平成19年度にも長崎玉成短期大学と相互評価を実施している。現在、相互評価の相手校の選定について再検討がなされており、積極的な取り組みが実施されている。